


資料 2

軌道運送高度化事業の概要

日付	内容
平成5年度	・「新交通システム研究会」を設置(宇都宮市街地開発組合) ⇒新交通システムの検討開始
平成6年度	・「新都市交通対策協議会」を設置 ⇒望ましい交通体系の在り方を検討
平成7年度	・「宇都宮都市圏交通マスタープラン」を策定 ⇒将来の交通需要を踏まえ道路・公共交通ネットワークの整備の在り方を検討 ・「新交通システム導入可能性に関する調査」の実施
平成9年度	・「新交通システム検討委員会」を設置 ⇒成立可能性を研究・検討
平成12年度	・「新交通システム導入基本方針」の策定
平成13～ 14年度	・「新交通システム導入基本計画策定委員会」を設置 ・「新交通システム導入基本計画策定調査」の実施
平成19～ 20年度	・「宇都宮市都市・地域交通戦略策定協議会」を設置 ・「新交通システム検討委員会」を設置 ・「事業・運営手法」と「施設計画」に関する調査の実施
平成21年度	・「宇都宮都市交通戦略」の策定
平成22年度 ～	・「まちづくり」と「公共交通」に関する市民説明の開始 ⇒パンフレットの全戸配布、オープンハウスや市民フォーラムの実施
平成24年度	・「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」の策定
平成25年度	・「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」を踏まえ、事業化に向けた調査検討の実施 ・39地区連合自治会単位の説明会等の開催 ・芳賀町及び同町議会から宇都宮市へLRT整備に関する要望書の提出 ・「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」を設置
平成26年度	・沿線従業者アンケート調査の実施 ・県央広域都市圏生活行動実態調査の実施
平成27年度	・「芳賀・宇都宮東部地域公共交通活性化協議会」を設置 ・「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」の策定

<h2>1 背景と目的</h2> <p>宇都宮市は、平成20年に「第5次宇都宮市総合計画」を策定し、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を掲げている。その実現に向け、階層性を持った公共交通ネットワークを形成していくため、平成21年に「宇都宮都市交通戦略」を策定している。</p> <p>また、芳賀町は、町民の交通手段を確保するため、「公共交通の充実」に向けて平成23年に「第5次芳賀町振興計画後期計画」を策定している。</p> <p>「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」は、宇都宮市と芳賀町が共同で上位計画等の方針を踏まえながら、「地域公共交通活性化再生法」に基づき策定したものである。</p> <p>※平成27年11月策定</p>	<h2>2 計画の区域</h2> <p>JR宇都宮駅東側から芳賀町にかけての(主)宇都宮向田線、(主)宇都宮茂木線を中心とした地域</p>  <h2>3 計画年次</h2> <p>平成27年から平成36年までの10年間</p>
---	--

4 地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本方針

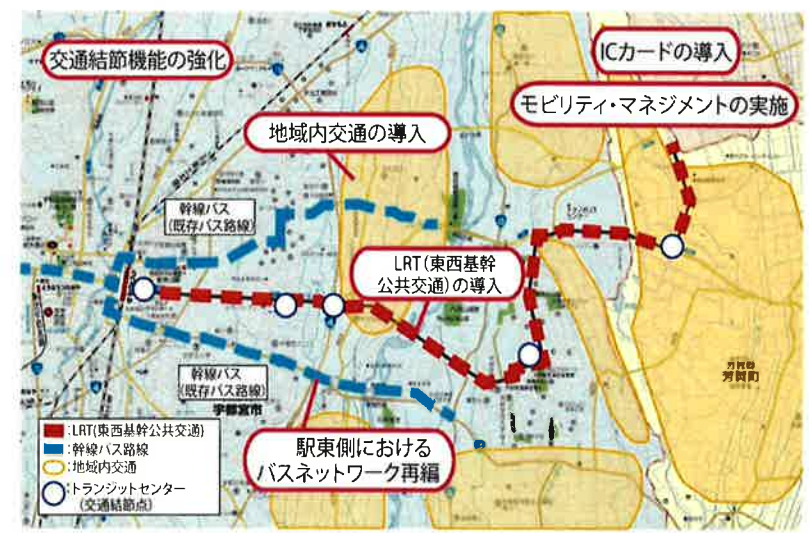
地域の自動車交通混雑の緩和や公共交通不便地域の解消を行うとともに、都市の様々な活動を支える社会基盤として、鉄道や東西基幹公共交通、バス、地域内交通など、地域の特性に応じた公共交通が機能的・効率的に連携する階層性のある「公共交通ネットワーク」の構築を目指す。

基本方針① 基幹公共交通としてのLRTの導入

- 高い輸送力や定時性などを備え、将来のまちづくりに多くの効果が期待できるLRTを東西基幹公共交通として導入

基本方針② LRT整備と関連する施策の推進による公共交通ネットワークの形成

- LRTと連携する交通が一体的に機能し、乗り換え拠点となるトランジットセンターの整備やICカードを導入
- 公共交通ネットワークの充実や公共交通の利用促進を図るため、駅東側におけるバスネットワークの再編や地域内交通の導入、モビリティ・マネジメントなどを実施



5 地域公共交通網形成計画の事業

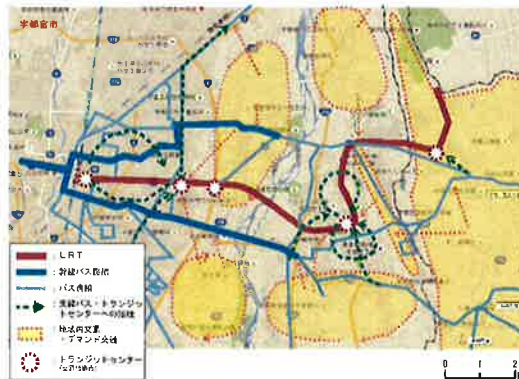
LRT(東西基幹公共交通)の導入 軌道運送高度化事業

公共交通ネットワークの実現に向け、その要となる基幹公共交通としてLRTを導入

駅東側におけるバスネットワークの再編

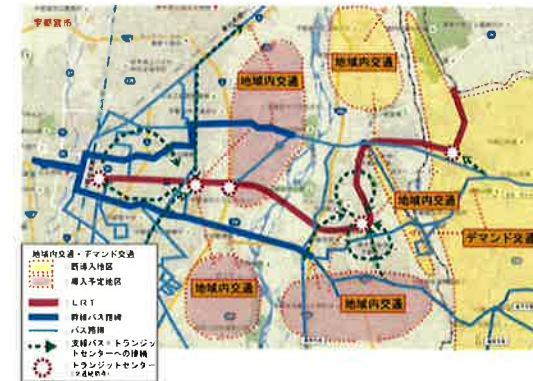
LRTの導入と合わせて、広域バス路線への影響にも配慮しながら、LRTや地域内交通（宇都宮市）・デマンド交通（芳賀町）と連携した幹線・支線からなる持続可能なバスネットワークを整備

※今後、「地域公共交通再編実施計画」を策定予定



地域内交通の導入

- 公共交通空白地域の解消を図るため、地域を面的にカバーする地域内交通を新たに導入
- 既導入地区については、LRTやバス路線との連携の強化を図り利便性を向上



交通結節機能の強化(トランジットセンターの整備等)

LRTを東西基幹公共交通として、様々な交通機関が連携した利便性の高い公共交通ネットワークを形成するため、鉄道やバス、自動車などの各種交通との乗り換えが想定される箇所において交通結節機能を強化



ICカードの導入

公共交通の乗り継ぎ円滑化や利便性向上のため、LRTやバスにおいて、乗降時に機器にかざすだけで乗り降りができるICカードを導入



モビリティマネジメントの実施

過度に自動車に依存しないライフスタイルへの転換を図るため、行政や交通事業者、地域住民・企業等が連携し、モビリティ・マネジメント（公共交通利用等への意識転換策）を実施

軌道運送高度化実施計画の申請概要

申請者	宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社
実施区域	14.6km（優先整備区間）
事業内容	①軌道施設の整備（新設） ②LRVの導入（17編成）
実施予定 期 間	・運輸開始予定年月 平成31年12月
事業方式	上下分離方式 【軌道整備事業者】宇都宮市、芳賀町 【軌道運送事業者】宇都宮ライトレール株式会社



軌道運送高度化事業として位置づける主な整備内容

① 軌道施設の整備(新設)

- LRTは、基本的に既存の道路空間の中央部に敷設し、一部区間では、新たにLRT専用の走行空間や橋梁を整備する。
- 快適で低騒音、低振動の走行ができる樹脂固定による制振軌道構造を基本とし、バリアフリー対応の停留場を整備するとともに、車両基地や変電所等の必要な施設を整備する。

- 整備延長 L=14.6km(複線)
- 停留場数 19ヶ所
- 車両基地 1ヶ所
- 変電所 4ヶ所



標準断面図(中央部・複線)



樹脂固定による制振軌道

② LRVの導入

○ 導入する車両の数及び構造

車両数：17編成

構造：バリアフリー対応の低床式で、加減速性能に優れ、運転席及び車内の窓を出来る限り大きくとり、運転士の視認性が高まり走行安全性にも配慮した車両



導入予定車両イメージ (福井鉄道：FUKURAM)

車両の基本仕様

項目	車両の基本仕様案
軌間	1,067mm
車体寸法	全長約30m, 幅2.65m
床面高さ(レール面から)	300mm程度
軸重(設計荷重)	100kN
定員	155人
最高運転速度	70km/h
加速度	3.5km/h/sec
常用減速度	4.4km/h/sec
非常減速度	5.0km/h/sec以上
車輪径/バックケージ・フランジ形状	φ660mm程度
電圧	直流750V

申請区間の運行計画

運行系統	1系統: JR宇都宮駅東口～本田技研北門
営業キロ	14.6km
運転時間帯	6時台～23時台
運行間隔	ピーク時(6～9時、17～19時) 6分間隔(10本/時) オフピーク時(上記以外) 10分間隔(6本/時)
列車種別	ピーク時(6～9時、17～19時) 普通列車、快速列車 オフピーク時(上記以外) 普通列車のみ

最高速度	全線40km/h(全線併用軌道)
所要時間	普通列車:約44分 快速列車:約38分
運行本数	【平日】128本/日 【休日】108本/日
運賃	初乗り150円～400円(対距離制)
運賃收受方法	ワンマン運転

